
白い夜叉を纏う閃光

白鷗 斬月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白い夜叉を纏う閃光

【Zコード】

N4780N

【作者名】

白鷗 斬月

【あらすじ】

攘夷戦争から数年後…。

再会する兄弟…そして、動き出す歯車。

プロローグ

『その男、白い夜叉を纏い戦場を駆るスピードは、一筋の閃光に…』

攘夷戦争で呼ばれた二つの名は…

～迅速の月光～

『その男、銀色の髪に血を浴び、戦場を駆る姿はまさしく…夜叉』

攘夷戦争で呼ばれた二つの名は…

～白夜叉～

なあ、銀時

ん？

この戦争が終わったら、どうしたい？

ンだよ、いきなり？

… そうだな、先生はいないけど、また、みんなと一緒に過ごせたらいいな…

… そうだな、俺も賛成だ。みんなと一緒に…

なあ？

ん？

… 今言つたこと、忘れんなよ。

… ああ、わかった。忘れない。

第一話『夢の中の記憶』（前書き）

感想をお待ちしております！

では、本文どうぞ

…短いです

第一話『夢の中の記憶』

「ツー！」

ガバリと勢いよく布団から起き上がる。

「……んだよ、チクシヨー……」

辺りを見回してから溜め息を吐くと、のつそつと居間へ移動する。どしどしそ寝たくても、夢のせいで寝られないだろう。

「懐かしいな……時雨が出て来る夢なんて……」

いつ以来だらうか？と思しながらソファーに座つてると、インター ホンが鳴った。

新ハだらう、と予想して、今考えていたことを振り払う。子供は勘がいいから、心配されても困る。

別にもう、いいだらう……

時雨はもう……

いないのだから……

第一話 《夢の中の記憶》（後書き）

質問があれば、どうぞ。

第一話 『新たな出会いと生活』（前書き）

明日…じゃなく、もつと今日だね…？

今日塾のテストなの…
なにせひしてんだら…？

あとがきで時局のキャラクタ設定を書くもよ！

第一話 『新たな出会いと生活』

一室に大人数集まつて、会議をしているのは泣く子も黙る真選組。ちょうど近藤が出張から帰ってきて、その報告をしている。

「えー、俺が居ない間、「」苦勞だつた！」

ガヤガヤ…

「それで一つ、皆に言いたい事があるんだが……誰も聞いてないな
…トシ」

ガチャ…

ドッカーン!!

「えー、俺が居ない間、「」苦勞だつた！」

「「「「」」苦勞様でしたーーー。」」」

「それで一つ、皆に言いたい事があるんだが……入つていいぞー！」

スツ…

「ツー！？」

入つて来た人物に、土方は啞然とした。それは皆も同じなのか、さつきとは違い、静まりかえつている。

「たまたま向こうで会つてな、行く場所がないらしい。だからここに居候する事になつた！」

ニカツと笑い、自己紹介を、と言う近藤。その人物…男は、近藤に頷き、自己紹介をした。

「…今日から世話になる…」

「吉田 時雨だ」

一度区切つて、こちらを見た気がした。見ただけでゾッとするような朱色の瞳、灰色に見えるが、光が当たると銀に見える…少し癖毛のある髪。

一瞬、違う男と重なつた。

土方にとって、ライバルであり、気が合わない喧嘩仲間…であり、真選組にとつては、腐れ縁である男。

坂田 銀時に…

第一話『新たな出会いと生活』（後書き）

吉田 ヨシタ 時雨 シゲレ

身長：178cm

髪の毛：灰色に見える銀髪瞳：朱色
年齢を、みんなちょっとかえて、

銀時：21歳

時雨：25歳

高杉：23歳

桂：24歳

坂本：25歳

土方：23歳

沖田：18歳

近藤：28歳

山崎：22歳

新八：16歳

神楽：14歳

妙：18歳

他にも出るかも知れないキャラがあれば、またあとがきに書ききます！

ちなみに、お妙さん出るかわかりません？

第三話 《似た者》（前書き）

テスト疲れたー！

これ書いてて、やっぱ機械音痴だなとしみじみ思う。

第三話 『似た者』

「えられた部屋に入り、さつきの事を思い出す。

「（久しづびだな…あんなに沢山の視線を受けるのは…）」

理解できないという視線

警戒してゐる視線

そして…

「まあ、だけどあそこまで瞳孔開いててガン見されると、なんかな
」

「…なんか、ナンだよ」

何も言わずに入つて來た非常識な奴の…

「おいおい、入るなら声ぐらいかけろや。」

「……あんた、何者だ？」
訝しげな視線。

「……お前、名前は？」

「土方…土方十四郎だ」

「ふーん… 土方… ね」

なんか…似てるなと思つ。会つたばかりなのに、なぜか、そんな気になる。

「なあ、 土方。俺の事知つてどうするんだ?」

土方は黙つた。それほど言ひにいくのだろうか?

「あんた… いや、やっぱこいです。忘れてください。」

「あ?… そうか、わかつた。忘れよ。」

そつは言つたものの、やはり、気になるのは人間の性質故か、すぐには忘れられない。

「すまん、なんか…じやあ、俺はこれで。」

土方が出ていつた瞬間、時雨は溜め息を吐いた。

「…結局、出ていくときも失礼しましたって言わないんだな。」

似てるな… 銀時に…

「ふん… アイツ、今頃何してるんだろうな。」

しんみりした空氣の中、自分の弟の事を考える。

生きているかもわからない、弟。

だが、自分は生きている。

なり、銀時も生きてこなはず。

そんなことを考えてくる内に、もう一皿が終わつそつと時間がたつた。

これが、やせんとした生活ができるのか…

心配だ。

第三話 『似た者』（後書き）

土方に敬語使わせようかと思つたけど、やめた！

後の方で…フフフ…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4780z/>

白い夜叉を纏う閃光

2011年12月17日20時50分発行